

# つどい

第16号

発行日：令和6年11月

こんにちは!野木町交流センター「野木ホフマン館」です。  
今回の「つどい第16号」でお届けするのは、概ね次のとおりです。

- 野木ホフマン館の近況と事業
- 野木町煉瓦窯のおはなしその⑬
- 自然豊かな渡良瀬遊水地その⑤

## 【野木ホフマン館の近況と事業】

野木町煉瓦窯の見学時間は、ガイドを付けない自由見学ならば、概ね20分で見学できます。ガイド付き見学（予め予約）は約40分です。また、ホフマン館のロビーにテレビモニターで野木町煉瓦窯の案内がされていますので、煉瓦窯の詳細は分かるかなと思います。国指定重要文化財「野木町煉瓦窯」の見学（高校生以上@100円、中学生以下無料）に来てみてはいかがでしょうか。メタセコイア並木の紅葉が、例年11月中旬頃から始まり、ライトアップを11月15日～12月1日まで日没から18時までの短い時間ですが予定しています。多方面から多く方がメタセコイア並木・煉瓦窯の写真を撮りに来ます。ご来館お待ちしております。



古代アクセサリー 勾玉作り



殿堂入り・バラを愛でる講座



陶芸教室・作品

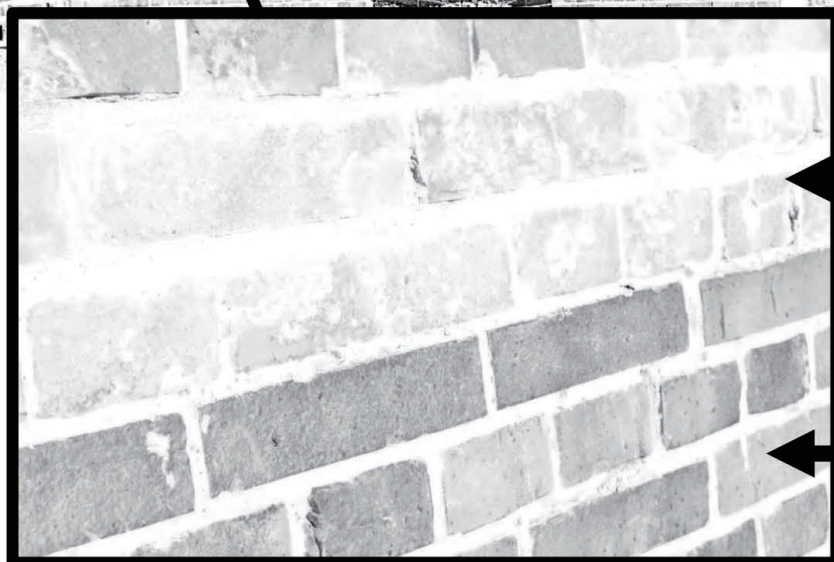


渡良瀬遊水地植物観察会

## 野木町煉瓦窯のおはなし その⑬

野木町煉瓦窯の外壁には2種類の煉瓦が使われています。外壁の上のほうは主に赤茶色の「赤煉瓦(=普通煉瓦)」、下のほうは色が濃く黒っぽい「焼過(やきすぎ)煉瓦」という煉瓦が使われています。この色の違いは、煉瓦を焼く温度の違いによります。

赤煉瓦は最も一般的な煉瓦で、約1000℃で焼かれています。野木町煉瓦窯で主に生産していたのはこの種類の煉瓦です。一方焼過煉瓦は、赤煉瓦よりも少し高い温度で焼かれるので、かたく焼き締まります。その結果、赤煉瓦より丈夫で、水がしみ込みにくなります。この特徴から、野木町煉瓦窯では特に雨水がかかりやすい、外壁の下の部分に焼過煉瓦が使われているのだと考えられます。(つづく)



赤煉瓦

焼過煉瓦



赤煉瓦



赤煉瓦に比べると、焼過煉瓦  
はやや小さめ



表面がツヤツヤしている  
焼過煉瓦もあります



煉瓦の積み方によっては、  
写真のようにレンガの色を  
活かして模様を作ることができます



# 自然豊かな渡良瀬遊水地 その⑮

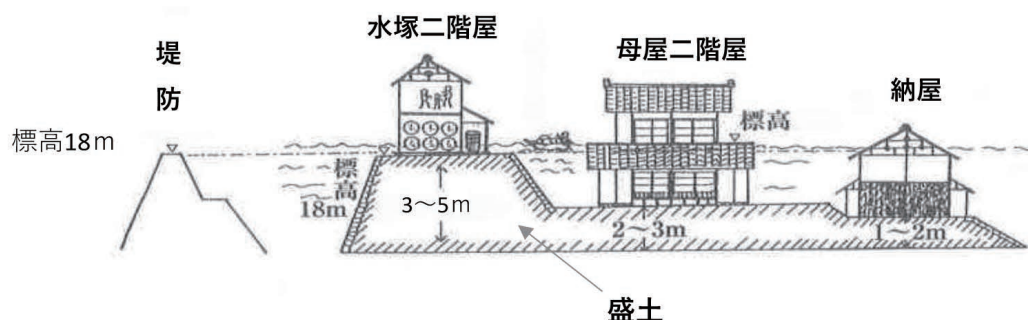
## 水害常習地帯の「生活の知恵」

### 1. 水塚(みづか)

水塚は、防水のため宅地の一部を人為的に土盛りをして、その上に建物を建てたもので、関東では 利根川中流域、思川、巴波川流域、渡良瀬川流域、荒川流域等の低地に数多く分布しています。

水塚は、洪水時に家人の生命・財産・農耕の使用する牛馬に至るまでの総てのものを水害から守ると同時に、「水塚」のない隣人や近所の人々を避難させたり、水中で助けを求めながら流されてくる人々を舟で救助したりする場でもあります。退水するまでの長期間にわたって水渦の中で共に生活するためにも、浸水の常習地帯では「水塚」や「揚舟」は大切なものであり生活と切り離すことのできないものであります。このようなものを創り出したのは、水害と闘いながら苦しんできた人々の生活の知恵ともいえるものであり、今日考えても非常に合理的であることがわかります。水塚には、水害に備えて人間の生命を保つための穀類(米・大小麦・大豆等)・味噌・醤油や大切な衣類・長持・タンス・什物等を格納しておく機能もあります。

### ●水塚・母屋等と堤防の相関図



### 参考文献

「渡良瀬遊水地の時」より

### 渡良瀬遊水地の近況

野鳥観察会「ツバメのねぐら入り」を8月8日(木)に行いました。第2調節池の池の上を多くのツバメが飛んでいる様子をスコープで確認することができました。残念ながら今年は、目視でねぐら入りを見ることができませんでした。ねぐら入りをする場所は毎年、変わるので来年は目視できる場所を期待したいです。

### 野木町交流センター

(野木ホフマン館)

開館日：火曜日～日曜日

9:00～18:00

(国民の祝日開館、翌平日閉館)

〒329-0114

野木町大字野木3324-10

☎ 0280-33-6667